

21 年度 委託研究報告書  
「携帯電話による自動問合せ情報収集分析支援システムの開発」

近藤麻理（岡山大学大学院保健学研究科 准教授）

1. 共同研究事業の開始

携帯電話を利用して、自動問い合わせが可能となる情報収集分析支援システム「げんき曜日」開発の事業計画について話し合うため、関係者による第 1 回会議が平成 21 年 9 月 10 日に行われた。以下の 5 点について助言を行ったので報告する。

1) 初期開発の実験的調査の検討

「げんき曜日」開発にあたって、当初予定していた学校関係者へのアプローチとフィールドにおける調査は、教育委員会との話し合いが必要であるなどの困難があり、すぐには調査が進まない。また、新型インフルエンザを強調しすぎると、汎用性がなくなり開発段階で多様な機能を盛り込むことができない可能性がある、などが議論された

2) 実験的調査対象の決定

あらゆる感染症（季節性インフルエンザ、O157 等）においても対応可能とする。現在の社会的では、「食の安全」への意識が高まり、食品の風評被害についてはもっとも回避しなければならない安全管理であるといえる。そのため本調査では、まず、流通業界からの制約が多い食品工場を調査対象として選定することを決定した。

3) 「げんき曜日」の信頼性について

携帯端末からの自己入力だけでは信頼性が低いとの指摘も考えられるため、モバイル温度センサー（体温、血圧、脈拍）などを携帯電話に手軽に接続できるようになれば、毎日の健康管理も含めてデータの信頼性は高くなる。そのためには、このようなセンサーを開発している企業との連携や、共同開発が将来的には必要となる。

4) 福祉現場への導入の可能性について

福祉関係の業界での普及は、対象が高齢者となり体温などの計測や携帯電話の利用が困難であると考えられる。さらに、福祉施設の経営状況を考えると人的資源が極端に不足している中で、IT や携帯電話を導入していくことは経済的にも困難であり、「げんき曜日」の開発にあたってのフィールド調査、あるいはその後の開発についても積極的な介入は避けた方が良いのではないかと考える。

5) 新型インフルエンザの傾向と対策

厚生労働省（9 月）による発表では、平成 21 年度の新型インフルエンザの流行のピークは 10 月であり、季節性インフルエンザは例年通り 12 月～1 月がピークであると予想された。しかし、「げんき曜日」ではインフルエンザだけではなく、1 年を

通しての健康状態の把握、多様な感染症に対応可能なシステムを開発する。

## 2. 実験的調査の開始

9月30日には、愛媛県の母恵夢本舗を訪問（3名）し、工場責任者と本システム開発のための実験的調査の依頼と具体的な説明をおこなった。

### 1) 実験的調査の手順

1つの工場の従業員（15名前後）の協力を得て、1ヶ月間程度システム試行期間とし、入力方法や内容などについて意見をいただき、システム開発者とともに具体的な追加機能などについて検討する。

### 2) 健康管理の意識向上

毎日の健康管理を報告する行為によって、自分自身の健康状態や家族、社員の健康についての意識の向上を、インタビューによって聞き取る。単なる感染症報告システムの開発とならないように、広義の健康管理システムとして機能するような発想を、開発者等が共通の認識として持ち続けることが重要である。

### 3) 双方向性をもつシステム開発

工場管理者からは、台風や災害時の緊急連絡や一斉に流せるメール機能が簡単に利用できるのであれば有用であるとの意見があった。従業員からの情報を一方的に管理するのではなく、双方向性のあるシステムとして開発し、病気で休む日などは、「はやくよくなってくださいね」などのお見舞いメールが自動的に流れるようにするなどの工夫も必要である。

## 3. 共同研究事業の経過に関する説明責任

本研究事業は、公的な資金を利用しているため、開発にあたりその目的や社会的貢献について説明し、社会に周知させていきながら開発することが重要であるといえる。そのため、携帯電話を利用して、自動問い合わせが可能となる情報収集分析支援システムの開発に関する説明と、その意義について説明書を作成した。特に感染症への予防的対策を含めて、今後のシステム開発のあり方について助言を行った。

## 4. 今後の展望

母恵夢本舗での実験的調査は、現在も継続中であるため、具体的な結果はまだ出ていない。現在は1社の工場であるが、今後は岡山県内あるいは近隣県で協力が得られる企業の対象地から順に実施していき、引き続きシステム開発を進めていく。まずは工場でのシステムを開発し、その後は順に、学校関係や必要とされる組織・団体での調査範囲と規模の拡大が期待される。